

WS056 臨床実践と心理学研究の対話(3)－新型うつに対する研究と臨床に向けて－

企画者：勝谷 紀子（青山学院大学）
企画者：松浦 隆信（立正大学）
企画者：伊藤 絵美（洗足ストレスコーピング・サポートオフィス）
司会者：勝谷 紀子（青山学院大学）
司会者：松浦 隆信（立正大学）
話題提供者：松浦 隆信（立正大学）
話題提供者：勝谷 紀子（青山学院大学）
話題提供者：山川 樹（日本大学）
指定討論者：石垣 琢磨（東京大学）
指定討論者：橋本 剛（静岡大学）

臨床実践と心理学研究双方の知見を各々の領域で活かす方法について議論を深めるワークショップの第三回目である。今回は、一昨年より行われている「抑うつの対人的アプローチ研究の最前線」との統合発展と位置づけ、「新型うつ」と呼ばれる新たな抑うつ類型をテーマに取り上げる。

「新型うつ」はこれまでの抑うつ群に見られていた真面目さや几帳面さといった特性が乏しく、対人関係面では他罰傾向が強く自己中心的であるといった特徴が見られるが、研究の現状は主に医学系の臨床家による症例検討が中心である。

そこで今回は、まず臨床の立場から「新型うつ」の心理的特徴や介入の難しさなどについて報告し、次に基礎の立場からこれまでの抑うつ研究で得られている知見との照合を行い、従来の抑うつ群との相違や今後検討すべき事項などについて議論を深める。最後に指定討論者2名からコメントをいただき、今後の臨床と心理学研究の方向性について模索したい。